

# フリーペーパーで「オモイ」を「カタチ」に ～学生目線で北浜の魅力を発信～

代表者 濱田 日那（法学部法学科2年）

## 1. 目的と概要

この事業の目的は大きく2つ挙げられる。1つ目は活動を通して私たちが活動を行う香川県高松市北浜地区ならびに商業施設北浜alleyの魅力を発信することである。北浜地区は商業施設北浜alleyを中心に、個性的な飲食店、雑貨屋等が立ち並ぶ、魅力溢れた地域である。しかし、北浜alleyができてからの20年という月日、また新型コロナウイルスの影響により客足は減少傾向にあった。個人事業主が多い北浜地区ではこの影響が大きく、撤退を余儀なくされる店舗も1つではなかった。このような課題に対して、私たちができることは、一人でも多くの人に北浜地区の存在を知ってもらうこと、北浜地区の魅力を伝えていくことだと考えた。私たちKitahama Labのメンバーが北浜に抱く想い、北浜の人々が胸に抱いている想い、そうした様々な人々の想いを形にし、多くの人々に届けていくにはフリーペーパーという媒体が最も適切かつ効果的であると考えた。また、学生目線から見た地域の魅力を紹介することで、他のタウン誌などとは一味違う、想いのこもったフリーペーパーの完成を目指していきたい。2つ目は活動を通して、メンバー自身が活動地域について知識を増やし、理解を深めることで、今後の活動において正しい知識を活用できるようにすることである。私たちのプロジェクトは2020年10月に発足したばかりであり、メンバーが十分に地域を理解できていないという課題を抱えている。今後、活動を行うなかで地域理解を深めることは地域住民から信頼していただき円滑に活動を進めていくために必要不可欠な要素である。したがって、私たちはこの事業を通して地域理解を深めることを2つ目の目的とした。

次にこの事業から得た結果であるが、フリーペーパーの発行部数が約400部ずつとそれほど多くないこと、別の誘因により北浜を訪れる人の存在から、フリーペーパーの発行と北浜地区を訪れる人の数との関係を具体的な数値で表現することは困難であった。しかし、そもそもフリーペーパーは草の根活動的な意味合いが大きいものであり、継続していくことで徐々に効果を発揮していくものである。また、フリーペーパーの作成を通じた北浜地区の方々とのコミュニケーションは、信頼関係の醸成に繋がったといえる。したがって、私たちがフリーペーパーの発行を続けることは、北浜地区という地域にとって、Kitahama Labというプロジェクトにとって、今後の発展に繋がる重要な活動であることが

再認識することができた。

## 2. 実施期間（実施日）

令和4年6月30日から 令和5年3月31日まで

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

1) プロジェクトの具体的な成果としては、フリーペーパーの3号と4号の発行である。このプロジェクトを通して作成したフリーペーパーを発行することで、より多くの人々へ活動地域である高松市北浜地区の特徴や魅力を伝えることができた。また、集客力の向上が期待できる。これは課題であった客数の減少への有効な解決策となった。



SNS を通して実際に北浜地区を訪れた方とコンタクトを取り、投稿を紹介させて頂くという形で お客さんの声を掲載することも実現でき、学生らしい・若者らしい目線でのフリーペーパー作成ができた。



また同時に SNS での広報活動にも力を入れ、他県のフリーペーパーを扱う書店さんにも声掛けいただき冊子を置いていただけることになった。

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

この事業を実施したことにより、香川大学の「地域に根差した大学」という教育理念に沿って、学生が地域活性化に積極的に取り組んでいることをアピールすることができた。ことでん主要駅や高松空港、シンボルタワー、中央図書館など多くの市民が訪れる場所を中心にフリーペーパーを設置させていただいたことから、香川大学やKitahama Labの知名度も向上させることができた。また、この事業では、学生が主体となり、自らの力で企画・運営を行い、地域の方との交流を深めることから、香川大学の教育目標にある豊かな人間性・倫理性を備えた人材や国際的に活動できる人材の育成に繋げることができた。

北浜alleyならびに北浜地区に対しては、北浜地区でお店を営む店主さんなどのインタビュー記事や店舗紹介を行うことで、集客率の向上や北浜地区全体やそれぞれの店舗の魅力発信に微力ながら貢献することができたと感じている。



#### 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

昨年度から行っているフリーペーパー発行であるが、今年度、夢チャレンジプロジェクトのご支援のおかげで冊数を大幅に伸ばしての継続発行が可能となり、フリーペーパーに興味を持ってくれる方が増えた。また、リピーター（継続して冊子を手にとってくださるお客さん）が増えたことから、継続していくことの大切さがわかった。さらに、フリーペーパー作成に関してメンバー内でも責任感や意識が高まり、次号に対する熱い思いが生まれた。自分たちが土日に北浜地区で開いている「きたはま案内所」で活動を行っているときにフリーペーパーを実際に持ちながらお店を巡られている方をお見掛けすることがあったり、「フリーペーパー作っている方々ですか？」と声掛けていただく機会があったりしたため自分たちの活動も少しずつ知名度が上がっているのではないだろうかと感じた。



## 6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

今年の反省点として、編集作業や店舗への確認作業に想定以上の時間と労力を必要としたことから、当初の発行計画より少し遅れが発生してしまった。当初、フリーペーパー第1弾を9月、第2弾を1月に発行する予定であった。しかし、実際には第1弾を10月、第2弾を2月に発行した。このように遅れた原因には事前の準備、スケジュール管理が不十分という点が挙げられる。メンバーの作業負担の偏りは夢チャレンジプロジェクト採択前の昨年度と比べると小さくなったものの未だ見られている。

今後は、これまでの反省を活かした余裕を持ったスケジュールを組むとともに、予定通りに計画が進んでいるのかをお互いに確認しあうことを徹底し、さらなるフリーペーパーの完成度の向上に繋げていきたい。また編集ソフトを扱える技術を持ったメンバーを増やすことに取り組むほか、メンバー編成を見直すことにも取り組んでいきたい。

今回のプロジェクトでは改善点も見つかったが、同時に多くの気づきもあった。取材に伺った北浜の方々それぞれの仕事に対する真剣な思いは特に印象深かった。学生の立場でありながら、そうした想いを直接聞くことが出来たことで、フリーペーパーの制作においてもさらに良い形で多くの人にお届けしなければならないという使命感や責任感を持って取り組むことが出来た。結果として、北浜の方々からたくさんのお褒めの言葉を頂いたこと、さらに信頼を獲得することが出来たことは非常に大きな喜びであった。今後も北浜地区の皆様の期待に応えられるようにフリーペーパーを発行する活動を続けていきたい。

## 7. 実施メンバー

代表者	濱田 日那（法学部2年）	
構成員	村上 巧海（教育学部3年）	荒木 海斗（経済学部3年）
	横川 拓海（創造工学部4年）	雨堤 麻衣（経済学部3年）
	井上 智尋（経済学部3年）	大久保 裕太（創造工学部3年）
	川上 満里奈（経済学部3年）	劔持 怜歆（経済学部3年）
	佐野 愛菜（経済学部3年）	洲脇 ちひろ（経済学部3年）
	石川 敦也（経済学部3年）	
	黒田 雅貴（経済学部2年）	齋藤 美優（農学部2年）
	堺 愛璃（経済学部2年）	鈴木 美咲（経済学部2年）
	南 羽寧（経済学部2年）	山口 実愛（創造工学部2年）
	大前 義継（法学部2年）	服部 俊介（法学部2年）
	森本 景月（経済学部2年）	山内 遥愛（経済学部2年）
	秋山 奈々（経済学部1年）	猪熊 季夏（経済学部1年）
	岩田 琉伽（創造工学部1年）	塩崎 泰知（経済学部1年）
	中野 幸太郎（創造工学部1年）	中山 凜（経済学部1年）
	眞鍋 裕也（創造工学部1年）	横手 美紀（創造工学部1年）

## 8. 執行経費内訳書

配分予算額		199,786円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
link.vol.3 印刷費用	415	232	99,601	
領収書発行代	1	550	550	
link.vol.4 印刷費用	412	232	98,905	
領収書発行代	1	550	550	
合計			199,606	